

# 専攻科福祉専攻学生の効果的な実習指導への取り組み

～実習前後のアンケートから学生の弱み強みを把握して～

## A New Approach to Effective Guidance for the NJC Welfare Department Internship Program

－Based on Student Questionnaires Before and After Internship－

濱村 美和

### 1. 研究の意義

保育学科専攻科福祉専攻は1年で介護福祉士の資格を取得できるコースである。1年間で16科目を履修し、そのうち介護福祉実習は科目の進捗状況を考慮し、4つの段階に分けて行われている。しかし、第1段階、第2段階ではまだ形態別介護技術が開講していない状態で実習に行かなければならず、認知症や高齢者の特徴等について十分理解しないまま利用者と接し、コミュニケーションを図ることになる。

そこで、学生がまだ科目を未修得状況であっても効果的に実習が行えるよう実習前にアンケートを行い、学生が得手としている部分（強み）と不得手としている部分（弱み）を把握し、強みを生かし弱みに力を入れて指導を行うことで実習効果を上げ、学生のやる気を引き出せたら良いと考え取り組んだ。

### 2. 研究目的・方法

#### 1) 研究目的

学生の得手（強み）・不得手（弱み）を明確にし、強みを生かし弱みに力を入れて指導を行う事で実習効果をあげる。

#### 2) 研究方法

- ① 実習前のアンケートから、学生が得手・不得手としている項目を明確にする。
- ② 実習後のアンケートから、不得手としていた項目の実習効果を考察する。

3) 研究期間 平成19年5月～平成19年11月

4) 対象学生 専攻科福祉専攻 8名

### 3. 結果・考察 別表1～4参照

#### 1) 第1段階実習

アンケート結果によると、学生は高齢者や認知症高齢者や職員と上手にコミュニケーションを図れるかという施設内での人間関係や、体力と精神力が持続するか、朝遅刻しないよう早く起床できるか、実習日誌を書けるかという不安が強かった。実習後は言葉遣いを褒められた、利用者と一緒に懸命ゆっくり話すとコミュニケーションが図れ自信がついたという結果が得られ、意欲が

「全くない」と言っていた学生も「少しない」という段階に変化していた。しかし、「実践力・技術力」で実習前後共「全く自信がない」という学生が2名いた。この段階での実践力・技術力に×がついていることは予測できることで、入所者の身体に触れた介護はできないと説明もしており、問題は無いと考える。ただ×をつけた男子学生は、この頃より進学した事を後悔し始めていたことが第4段階実習前頃にわかった事から面接の方法を考えなければならなかったと反省する。

## 2) 第2段階実習

第2段階実習では、全く自信がないと答えた項目が多かったのは「実践力・技術力」であった。第2段階実習で主に実践する介護技術は「日常生活における基本介護技術」である。しかし、この時期は介護技術の「清潔に関する援助」については未履修である。また、演習はお互いがモデルとなって実施するため麻痺や拘縮のある高齢者とは異なる事から自信がないと答えていると考えた。「基礎知識の理解」の欄も第1段階実習と変わらず△と×が多い。これも同様に殆どの科目が未履修であるからだと言える。

## 3) 第3段階実習

第3段階実習の在宅で全く自信がない(×)と答えた学生は「観察・記録」の項目に1名いた。在宅介護では訪問が1回のみという事例が多く、限られた時間内の観察力が求められるが実習後には△になっている。障害者実習施設では×は0名であったが、△の印が多くつけられていたのは「観察・記録」、「介護技術力・実践力」、「分析・評価」であった。ここでは、施設による介護体制の違いや棟によっては自立されている入所者が多く、学生にも戸惑いがあった。学習意欲が△になっていた学生は、自分は介護福祉士に向いていないと感じ、進路について悩んでいた時期であった。そのうち女子学生は入所者から感謝の言葉をもらった事で学習意欲を持つようになった。

## 4) 第4段階実習

第4段階実習では介護過程の立案・実践・評価にウェイトがかかってくる。つまり、総仕上げの実習である。全く自信がないと答えた学生は、実習前は0名であった。しかし、実際は春より悩んでいた学生がいつ辞めるか分からない状況であった。学生は×をつけることに抵抗があり、つけたくてもつけられない気持ちや思いがあったとわかった。その傾向は特に男子学生にあった。実習後に×をつけた1名の学生がいた。その項目は「観察・記録」、「積極性」、「分析・評価」であった。これは、指導教員の助言で自分には観察する力がないと判断した事、保育学科の時よりかなり積極的にはなったが、まだ自分から職員に申し出る事が少なく、このまま卒業するには不足があったと感じた事、分析・評価も不十分だったと感じた事などが理由であった。しかし、当初より周りが見れるようになった、落ち着いて物事を考えるようになった、という自分の変化には気づいていた。

## 4. 結論

介護の初学者である学生は、初めての实習は緊張が強く、技術というよりも慣れない環境で実習することに対する不安が強かった。その不安を「底知れぬ不安」と学生は表現している。1, 2段階実習のアンケート結果は殆ど同じであり、同一施設に再度実習に行く事は、職員や入所者とのコミュ

ニケーションが図れ、強い不安はないと思っていた。しかし、逆に「一度来たから出来るでしょ」と言われることに対する不安や負担も大きかった。専攻科の学生は他の4年制大学の学生と比較される事があり、「そんな事も知らないの?」と言われる事に恐怖を感じ、分からなくても聞けなかったという。このことについては事前の打ち合わせで比較しないように施設側にお願いしているが、なかなか全スタッフには浸透していなかった。看護教育では、2ヶ月間臨床指導者講習会を受けた臨床実務経験のある看護師、もしくは担当教員が常時その場において学生指導を行う。しかも、一人一人の学生の実習指導案、日案、週案を作成し、それに基づいて教員や病棟師長と連絡をとりあって指導が行われる。しかし、介護教育では5年の実務経験のある職員が指導者となってくれるが夜勤もあり、また実際のケアと一緒にすることがない施設もあり、施設による差が大きい。専攻科の学生は「学生が最初から一人では出来ないことをわかって欲しい、期待しないで欲しい」と切実に訴えている。ある指導者からは、最近の学生は質が落ちてきていると言われた。しかし、同じ施設内においてもスタッフによってケアの方法が違うということも事実であり、学生の戸惑いのひとつである。指導者が傍につき、一緒に実践しながら指導すると、より効果も上がると思われる。学生の思いと実習を受入れる施設とのギャップを埋める為には教員が実習前の打ち合わせや巡回時にスタッフとのコミュニケーションを良くし、学生の現状、弱み、強みを分かっていることが重要となる。

学生の中にはアンケートに×印をつけるのは抵抗がある、という意見があった。それでは学生の本当の気持ちを知ることができず、アンケートをとることが真に意味があるのか迷う所だが、そうはいながらも「自分の気持ちを知ることが出来る」「第1段階実習から第4段階実習の自分の変化や成長を確認できる」「×はつけにくかったが教員に自分の気持ちをシグナルとして送ることができる」という理由で良かったという評価を得た。「辞める」と言っていた男子学生は、施設側の協力と懇切丁寧なる指導、さらに家族の協力を得、退学することもなく、保健室に寄らず真直ぐ教室に登校できるようにまでなった。「人は褒めて育てる」と言われるが、褒める事で快さ、楽しさ、うれしさ、気持ちよさなどの快感刺激（ドーパミン）が興奮して大脳新皮質に伝わる。また、やる気を生む物質としてのテストステロンが大脳辺縁系に伝わり、この2つが快感とやる気を起こすと言われている。その結果、脳全体のはたらきが活発になり、いったん認められたり、「成功することで快感を得た人は、再び快感を得る為にさらに努力する」と生田は言っている。この事からも、学生の強みを生かし、持てる力を引き出しつつ、強みよりもむしろ弱みに重点をおいて指導していくことが学生のやる気を引き出す事に繋がるといえる。学生に必要な事は「やる気」である。まずはそれを持たせる為の関わりが教員には必要ではないだろうか。実習前後のアンケートの活用は、教員間の共通理解が不可欠であり、各施設の実習指導者との打ち合わせにも欠かせない。今回は、この点では徹底していない時があり、反省している。

実習指導のあり方には、まだ検討の余地があり、今回の結果も明確な結果は出なかった。今後も学生が少しでも実習に興味を持ち、やる気を出し、介護に関心をもてるよう関わっていきたい。

## 5. まとめ

- ① 実習において、学生は慣れない環境、特に人的環境に対する不安が強く、経験を重ねてもそれは最後まで変わらない。
- ② 学生は自分にも強みがあることに気づいておらず、弱みを前面に出し、自信喪失しやすい。

- ③ 学生は褒めることでやる気を出す事ができる。そのために学生・教員間のコミュニケーションの場を設け、学生の思いを引き出す事が求められる。
- ④ 実習前に教員と指導者で打ち合わせした事項が、ケアを学生と一緒にやるスタッフに伝わる事が効果のある実習につながる。その為には、教員と指導者を含めたスタッフがコミュニケーションを図り情報交換をしなければならない。
- ⑤ 短期間の実習で全てを指導する事は困難である。よって強みを生かし、弱みの部分に焦点をあわせて指導することで効果を上げる事ができるのではないだろうか。

## 6. 謝辞

実習調整者としての役割を初めて経験し、その難しさや限界も感じた。しかし、学生を中心に物事を考え、施設側と学校側で協力していけば、何よりも学生のやる気を引き出せる事がわかった。介護福祉士教育に関して経験の浅い私に、沢山の助言をいただいた専攻科福祉専攻の教員や短大教員に深く感謝したい。

- 資料 1. 実習前後のアンケート 表1 表2 表3 表4  
2. 卒業直前の実習全般に関するアンケート調査（学生アンケートからの一部抜粋）

## 引用文献

生田 哲. (2006) 脳の健康 頭によいこと、悪いこと 講談社 P 4 1

## 参考文献

- 生田 哲. (2006) 脳の健康 頭によいこと、悪いこと 講談社  
佐藤みつ子、宇佐美千恵子、青木康子. (2006) 看護教育における授業設計 医学書院  
鈴木信子 (2003) 臨床実習指導者研修会 資料P 7  
受持学生の能力特性と指導目標との関連  
全国自治体病院協議会 看護教育施設部会

表1 第1段階実習前後の比較

斜体は男子学生

番号	学生名	基礎知識の理解		実践力・技術力		評価力		コミュニケーション能力		学習意欲	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
1	A	△	△	×	△	×	△	△	○	○	○
2	B	△	△	×	×	△	△	○	○	○	○
3	C	△	△	×	△	△	○	△	○	○	○
4	D	△	△	×	△	○	○	△	△	×	△
5	E	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○
6	F	△	○	×	△	△	△	○	○	△	○
7	G	△	△	×	×	△	△	○	○	△	○
8	H	×	△	×	△	△	△	△	△	△	△

○: 大丈夫だろう

△: 不安があるがなんとかなるだろう

×: 全く自信がない

表2 第2段階実習前後の比較

斜体は男子学生

番号	学生名	基礎知識の理解		実践力・技術力		評価力・分析力		コミュニケーション能力		学習意欲	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
1	A	△	△	×	△	×	△	△	○	○	○
2	B	△	△	×	×	△	△	○	○	○	○
3	C	△	△	×	△	△	△	△	○	○	○
4	D	△	△	×	△	○	○	△	△	×	△
5	E	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○
6	F	△	○	×	△	△	△	○	○	△	○
7	G	△	△	×	×	△	△	○	○	△	○
8	H	×	△	×	△	△	△	△	△	△	△

○: 大丈夫だろう

△: 不安があるがなんとかなるだろう

×: 全く自信がない

表3-1 第3段階実習(在宅)前後の比較

	学習意欲		観察・記録		介護技術力・実践力		積極性		責任・誠実さ		協調性		礼節		コミュニケーション能力		分析・評価	
	番号	学生名	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
斜体は男子学生	1	A	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	△	△	△	○	△	△
	2	B	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△
	3	C	○	○	△	△	△	△	△	○	△	○	△	○	△	○	△	△
	4	D	○	○	×	△	△	△	○	○	△	○	○	○	△	△	△	△
	5	E	○	○	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	△	△
	6	F	○	○	△	△	△	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	G	△	△	△	△	△	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△
	8	H	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△	△

表3-2 第3段階実習(障害)前後の比較

	学習意欲		観察・記録		介護技術力・実践力		積極性		責任・誠実さ		協調性		礼節		コミュニケーション能力		分析・評価	
	番号	学生名	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
斜体は男子学生	1	A	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	△	○	△	○	△	○
	2	B	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
	3	C	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
	4	D	○	○	△	△	△	△	○	○	○	d	○	○	△	○	△	△
	5	E	○	○	△	△	△	△	△	○	○	○	△	○	△	○	△	△
	6	F	○	○	△	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
	7	G	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
	8	H	△	○	△	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△

○:大丈夫だろう

△:不安があるがなんとかなるだろう

×:全く自信がない

表 4 4段階実習前後の比較

解体は男子学生

番号	学生名	学習意欲		観察・記録		介護技術力・実践力		積極性		責任・誠実さ		協調性		礼節		コミュニケーション能力		分析・評価	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
1	A	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	△	○
2	B	○	○	△	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
3	C	○	○	△	△	×	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
4	D	△	○	△	△	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△
5	E	○	○	△	×	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	×
6	F	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
7	G	△	○	△	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	△	○	△	△
8	H	△	○	△	△	△	○	△	○	△	○	△	○	○	○	△	○	△	△

○:大丈夫だろう

△:不安があるがなんとかなるだろう

×:全く自信がない

卒業前の実習全般に関するアンケート調査の結果（一部抜粋）

1 実習に関して

1) 何についてオリエンテーションして欲しいと思いましたか。

① 記録の書き方

それは どの記録ですか（

ア 実習日誌

イ プロセスレコード

ウ 実習計画の立て方

エ その他

② ヒヤリ・ハット、インシデントレポートの書き方

③ 実習施設に関して

過去（去年）の先輩が持った施設の印象について

④ 職員とのコミュニケーションの図り方

⑤ 各段階の実習目標・目的・内容についての説明

第1段階

第2段階

第3段階

第4段階

⑥ その他（

① 4 (50%)	ア 3	38%
	イ 2	25%
	ウ 3	38%
	エ 0	0
②	0	0
③	2	25%
④	6	75%
⑤	1	12%
⑥	1	12%

2) どの実習が楽しかったですか。また その理由はなんですか。

第1段階 ( 0 )

第2段階 ( 0 )

第3段階 ( 4名 )

\*実習施設がとても良くのびのびと自分らしく実習できた。

\*訪問介護で利用者の自宅でいろいろな話を聞くことができ、職員とも楽しく会話ができた。

\*訪問でさまざまな利用者を見ることができた。

\*在宅での利用者の生き生きとした生活を見ることができた。

\*在宅は一人一人違い、あらゆる介助の仕方を学べた。

第4段階 ( 2名 )

全部 ( 0 )

①	0	0
②	0	0
③	4	50%
④	2	25%
⑤	0	0



2 実習で嬉しかったことは何ですか。複数回答可。

- ① 利用者とのコミュニケーションが図れた。
- ② 利用者から感謝の言葉が聞かれた
- ③ 職員が親切でいつも声をかけ、励ましてくれた
- ④ 職員に質問しやすかった
- ⑤ 職員から褒められた
- ⑥ 教員がよく巡回に来てくれ、励ましてくれた
- ⑦ 教員から具体的に指導を受け、疑問が解けた
- ⑧ 実習評価が良かった
- ⑨ ケアの技術が身についた
- ⑩ 介護福祉士の素晴らしさが分かった
- ⑪ その他

①	7	87%
②	8	100%
③	5	62%
④	3	37%
⑤	3	37%
⑥	5	62%
⑦	3	37%
⑧	1	12%
⑨	8	100%
⑩	2	25%
⑪	0	0

3 実習でつらかった事はなんですか

- ① 相談相手がいなかった
- ② 一人の実習は寂しかった
- ③ 指導者が不在の時 何をどうすれば良いのか分からなかった。
- ④ 職員に聞きたくても多忙そうで声をかけられなかった
- ⑤ 職員に質問しても答えをもらえなかった
- ⑥ 職員に自分の考えを聞いてもらえなかった
- ⑦ 休憩場所がなかった
- ⑧ 実習時間が長かった
- ⑨ 実習施設が遠かった
- ⑩ 他の学校の学生と比較された
- ⑪ 技術が未熟で利用者から拒否された
- ⑫ 利用者が何を言っているのか分からずコミュニケーションが図れなかった。
- ⑬ 利用者の家族に声をかけられずコミュニケーションが図れなかった
- ⑭ 教員とコミュニケーションが図れなかった
- ⑮ 技術が未熟で頼まれても自信がなくできなかった
- ⑯ 介護過程の立案で助言をもらえなかった
- ⑰ その他（立案がうまくできずケースレポートで苦勞した。

①	0	0
②	1	12%
③	1	12%
④	6	75%
⑤	4	50%
⑥	1	12%
⑦	0	0
⑧	3	37%
⑨	4	50%
⑩	3	37%
⑪	2	25%
⑫	4	50%
⑬	0	0
⑭	0	0
⑮	3	37%
⑯	0	0
⑰	1	12%

- 4 3に答えて頂いた方にお尋ねします。その時 あなたはどのようにして解決しようとしたか。

- ① 話しやすい職員を探し、声をかけた
- ② クラスのメンバーに話を聞いてもらった（友人の協力を得た）
- ③ 教員に相談した
- ④ 親に話を聞いてもらった
- ⑤ 技術を磨こうと学内や自宅で練習した
- ⑥ 本や文献を調べた
- ⑦ そのままにしておいた
- ⑧ その他（

①	6	75
②	6	75
③	5	62
④	4	50
⑤	1	12
⑥	1	12
⑦	0	0
⑧	0	0